

基本
情報

管内人口：18,447 人（令和 6 年 8 月 1 日時点）／センター数：1 カ所（直営 0・委託 1）／高齢化率：49.6%（令和 4 年）



竹田市

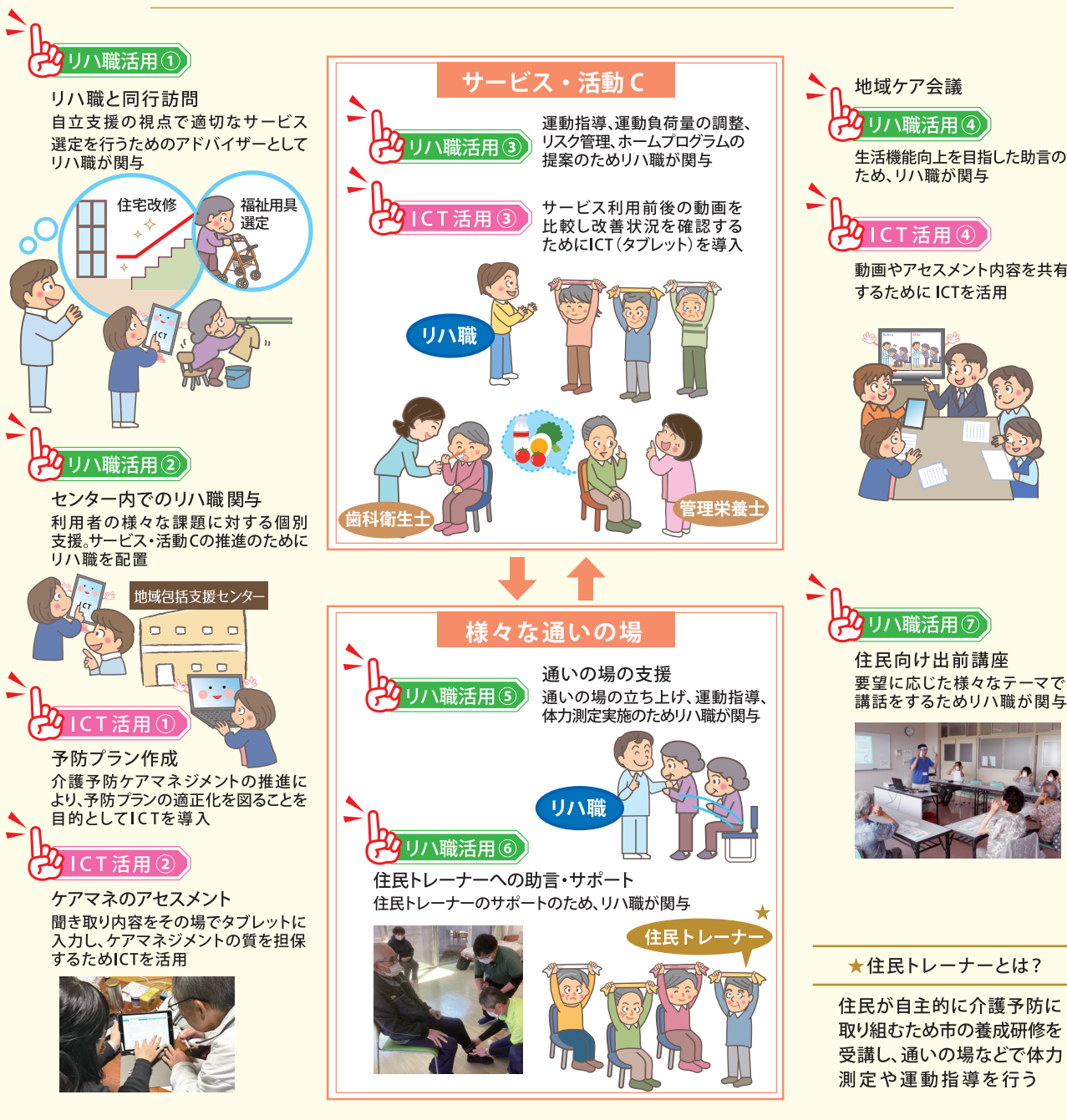
様々な財源を活用して、センターに 5 職種（PT・OT・ST・管理栄養士・歯科衛生士）を配置。一般介護予防事業、総合事業に関与することで、自立支援の視点や専門職ならではのアセスメントの視点を多職種で共有した。またケアプラン作成支援ソフトも導入したことで生活機能向上を目指し、より自立支援につながるケアマネジメントの推進に繋がった。

PT：理学療法士 OT：作業療法士 ST：言語聴覚士

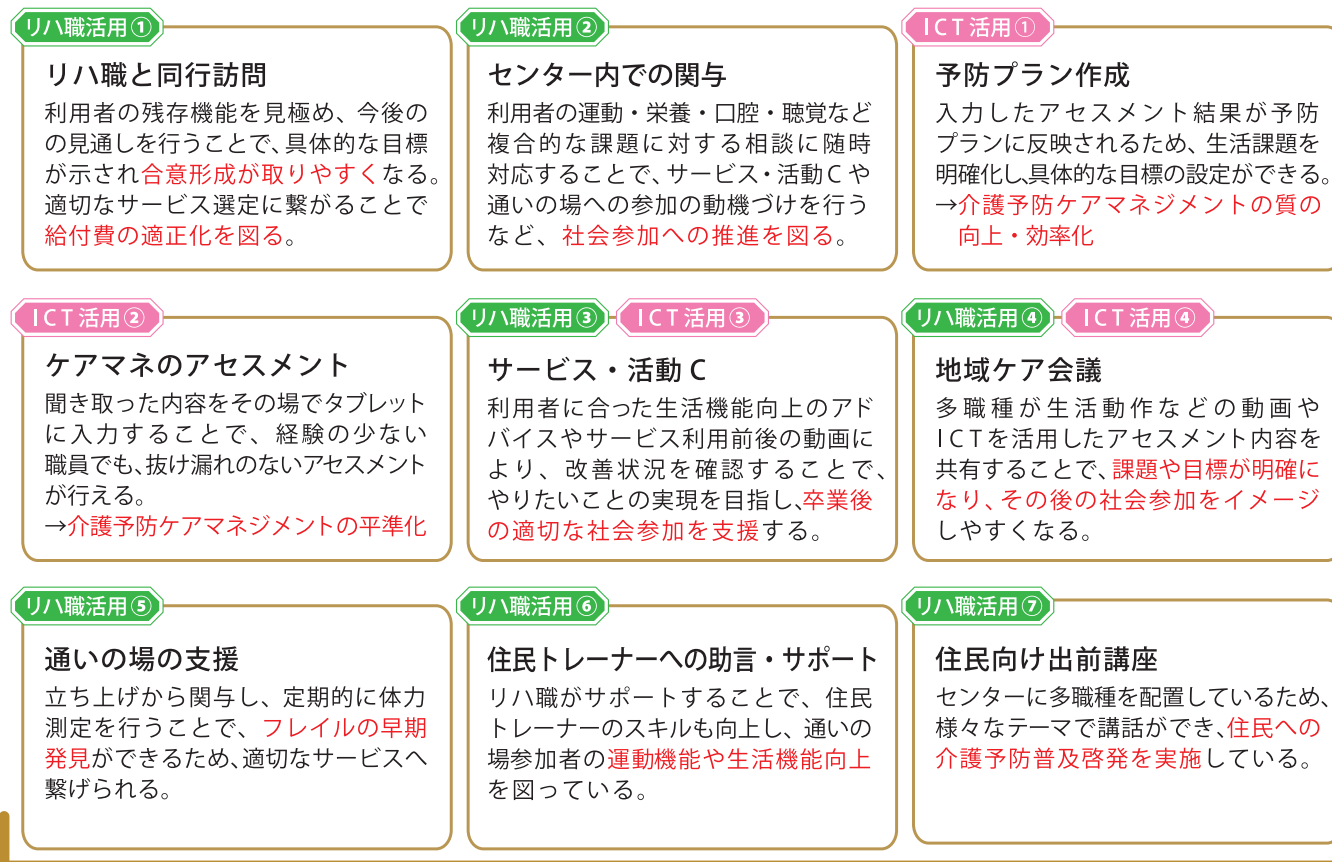
住民の生活機能向上の実現のため リハ職・ICT を積極的に活用

住民の生活機能向上を目的として、地域の様々な場々に専門職 5 職種が関与。

運動、栄養、口腔、嚥下、聴覚などの課題にも随時対応している。



リハ職・ICT 活用のポイント解説

住民のなりたい姿を
応援します！

リハ職

介護予防ケアマネジメントの
質の向上を目指すぞ！

ICT

コラム

「サービス・活動 C」と「通いの場」が介護給付費抑制の鍵！

～サービス・活動 C 利用群と未利用群では 1 人あたり 3 年間で介護給付費に 50 万円の差～

竹田市では、「リハ職が関与するサービス・活動 C」を利用し、要介護リスクが低減することで、市全体の介護給付費適正化に繋がっている。サービス卒業後も、送迎サービスのある運動教室や、歩いて参加できる「通いの場」などへの参加率が高く、高齢者の「通いの場」参加率が 10 年連続全国 1 位の大分県の中でも、竹田市が他の自治体を牽引している。このような活動が生活機能向上に伴う介護予防効果に繋がっている。



つくるくんの感想

リハ職が様々な場面に介入することで、通いの場などの一般介護予防事業からも支援が必要な利用者を把握し、早期にアセスメントに入れるので適切なサービスにつながって、地域での生活が維持できているんだね。さらに ICT を活用して、アセスメント結果などを共有することでリハ職から具体的なアドバイスがもらえ、利用者の合意形成が取りやすくなるんだ。介護予防の推進に、リハ職の関与と ICT 活用は大いに役立っているなあ～！

報告書 P208～